



JSCA千葉ニュース(冬)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)
〒261-0821 千葉市中央区若草1-2-35 (株)向後構造設計事務所 内 TEL043-225-2181 FAX 043-264-3046

新代表就任ご挨拶 JSCA・千葉 代表 向後 勝弘

第4代の JSCA・千葉代表に選出されました、株式会社向後構造設計事務所の代表取締役向後勝弘です。

歴代の立派な代表の後を引き継ぐというのは非常に肩の荷が重く、その任を全うできるかどうか心配ですが、代表を引き受けた限りは、皆様方のご協力をいただき、市原副代表、佐藤副代表と共に、さらに会を発展させて行くため、精一杯がんばって行きたいと思っております。

基本的には、今までのJSCA千葉の活動を引き継いで行きます。今までの活動を整理してみますと、一つは構造技術者の職能集団として活動するため、まず私たち会員が研鑽を積み、技術を高めてゆく研修活動です。次に、行政や他団体との連携を深め、協力して事業を行うという活動で、建築関係6団体連絡会議を通しての活動や、耐震診断、耐震改修及び適合性判定など建築行政への協力などです。



JSCA千葉 向後代表

最後に、それらの活動を通して、地域住民の皆さんに、構造の専門知識を生かして社会貢献をしていく活動です。最近では東北地方太平洋沖地震による、液状化に対する様々な活動が上げられると思います。

さらに私は、JSCAの会員に目を向け、会員がJSCAに何を望んでいるのか、また、普段の業務において何か不都合を感じているのか、など、会員の意見を聞きながら、個人としてはなかなかできないことを、会としてお手伝いして行きたいと考え、JSCAに入っていて良かったと思えるような活動に力を入れて行きたいと考えております。

現在の建築環境は、2020年に開かれる東京オリンピックまでは仕事の心配がないという考えもありますが、一方、構造設計事務所の大きな収入源であった耐震改修は平成27年度耐震化率90%を達成すると急激に仕事量が減少してゆくと思われます。

そんな中、会員の業務環境の改善や、適合判定を含む建築行政への要望など、会員の視点に立った、活動が今後大切になってくるのではないかと考えております。皆様のご協力やご支援をいただきながら、着実に進めて行きたいと思っておりますので、今後ともJSCA千葉へのご協力をよろしくお願いいたします。

JSCA千葉役員会組織一覧

代表役員	技術・研修委員会	専門委員会	総務・会計委員会	広報・会員委員会	若手研修推進WG
代表 向後 勝弘	★ 市原 嗣久	★ 向後 勝弘	★ 佐藤 暢彦	★ 佐藤 暢彦	★ 佐藤 暢彦
副代表 市原 嗣久	◎ 加藤 義道	◎ 富島 誠司	◎ 筈谷 修作	◎ 西澤 博文	◎ 秋山 秀之
副代表 佐藤 暢彦	長内 光雄	飯島 宏治	相山 誠治	明智 孝夫	木村 将士
(会計)	筈谷 修作	木原 碩美	榊原 裕繁	高橋 悟	関 和弘
	竹下 章治	齋藤美佐男	ホーム・ジ委員会	齋藤 利彦	豊岡 重人
★ 担当三役	涌井 栄治	園部 隆夫	★ 佐藤 暢彦	遠竹二三夫	監 事
◎ 委員長	柴田 孝行	真崎 雄一	◎ 加藤 義道	園部 隆夫	齋藤美佐男
	西原 幹夫	竹下 章治	貞弘 清英		園部 隆夫

JSCA・千葉 平成26年総会、記念講演会、懇親会の報告

(株)貞弘構造設計事務所 貞弘 清英

平成26年6月3日(火)於:三井ガーデンホテル千葉3階藤の間、午後1時30分 定刻にて司会進行役の竹下章治氏の開会宣言により通常総会が開催された。

議事進行に先立って園部代表が任期を無事務められたことに対する感謝の言葉と、次期代表と副代表候補者の紹介がなされ、自身は関東甲信越支部のまとめ役は引き続き行うとの報告がなされた。

出席者28名総会成立が報告され、定款に従い園部代表が議長席に着き通常総会の開催が宣せられた。

議長一任の了解の許、書記に榊原裕繁氏、議事録署名人に西澤博文氏、齋藤利彦氏が指名された。

議事に入り、総務担当の佐藤暢彦氏から第1号議案平成25年度事業報告の詳しい説明がなされ、第2号議案平成25年度決算報告が会計担当の向後勝弘氏から説明された後、監事を代表して齋藤美佐男氏より「決算報告は適正かつ正確である」との監査報告がなされた。

引き続き、第3号議案平成26年度事業計画案が佐藤総務担当より説明がなされた。ここで、議長がこれまでの議案に対して質問を募ったところ、出席者の一人から、耐震改修促進法の改正に伴う相談窓口開設に関する状況報告が求められた。これに対し園部代表が、開設後の相談は1件あったが耐震診断に至る内容ではなかったと回答した。次に第4号議案平成26年度予算案が向後会計担当より説明がなされ、最後に第5号議案平成26・27年度役員改選の件について、議長が立候補希望者を募ったが申し出がなかったところ、議長一任の声により、園部代表から役員候補者及び役割の提案があり、賛成拍手多数で了承された。

新役員は代表に向後勝弘氏、副代表に市原嗣久氏(再任)、佐藤暢彦氏で、新任挨拶が各自なされた。

以上により本年度総会を滞りなく終了し、司会者から閉会宣言がなされた。時に14時30分であった。



講演会講師 徐光氏

第17回通常総会が無事終了し、午後3時から同ホテル平安東の間にて、総会記念講演会が開催されました。

(株)ジェーエスディーの徐光氏を講師としてお招きし、「地震と建築」と題してご講演いただきました。

講演会に先立ち、新JSCA千葉代表となった向後勝弘氏が壇上に立ち、自己紹介とJSCA千葉の今後の活動に対する抱負とともに、多くの各省庁からの参加者を含め150名余りの大変盛況な会となったことに対するお礼が述べられました。

次にJSCA・千葉技術委員会の真崎雄一氏が、雑誌STRUCTURの「構造家アラカルト」で徐光氏のインタビューを務めたことから、インタビュー形式により氏の人柄とともに経歴が紹介されました。

講演会の始めに氏がお話されたことは、来日した当初は新耐震設計法が施行された直後であったこともあって保有水平耐力計算の概念を身に付けることに多くの時間を割いたとのことでした。出身地の上海は地震が無い地域なので、日本で最初に学ぶ必要があったようです。

建築基準法は大地震時において倒壊防止を規定し継続使用までは求めていませんが、資産価値を守る観点からも、氏は復元力の優れたPC構造、あるいは免震や制振とPCを組み合わせた構造を好んで採用しているとのことです。

氏は、建築設計に携わる一員である構造家の役割は建物の安全性のみならず建築空間や建築デザインにおいても重要で、計画時から積極的に構造に係わるデザインを提案すべきであると主張されています。

(3面につづく)

(2面からのつづき)

その実例として紹介された「東京未来大学」においては、学生ホールに柱頭を漏斗状にデザインしたコラムや折板構造の内部階段、さらには大講義室の内部空間を構成するPCリブアーチに如何なく氏の技術力が発揮されています。

引き続き氏の代表作「M'sCORE」ではシステマチックに計画された免震+PC構造、「日本橋三井タワー」ではアトリウムを覆うPC鋼棒を用いたメカニカルな構造デザイン、「いちとにぶんのいちView」ではダイナミックなパノラマビューを実現する為のPC組み立て後の迫り出しシステムの採用、等々多くの作品が紹介されました。

中でも、「秋葉原プロジェクト」は、狭小地で不動産価値の低い土地を免震+PRC造の提案によって資産価値の高い建物へと変貌させたもので、特筆すべきものがあります。免震構造では難しいとされる搭状比の高さを重心位置を下層に下げる工夫により補っているところが斬新であると言えるでしょう。



JSCA千葉総会



記念講演会



懇親会

講演会の2時間が短く感じられる程様々な事例を紹介していただき、PC構造の第一人者である徐光氏の貴重な設計体験談を聞くことが出来、有意義な一時を過ごすことが出来ました。

記念講演会の後、午後5時30分から同ホテル平安南の間にて、130人を超える出席者を得て盛大に懇親会が開催されました。

新副代表となった佐藤暢彦氏の司会進行により会が始まり、始めに新代表に就任した向後勝弘氏が紹介されました。

向後代表は、初代表の飯島氏がJSCA千葉の礎を築き、2代目の齋藤氏は耐震偽装問題による様々な対応に尽力され、前代表の園部氏は東日本大震災による千葉県の液状化被害に対するJSCAとしての重責を担われ尽力されて来たことに感謝を述べ、適判制度が軌道に乗り、震災復旧もある程度の目処が立っていることから、今後はこれからの構造設計を担う若手技術者の育成に力を入れて行きたいと抱負を述べました。

次に来賓として壇上に立たれた千葉県県土整備部次長の久保田浬様は、JSCA千葉とは非常に良い関係を築くことが出来ていること、千葉市都市局建築部部長の櫻田武様も、同じく協力関係の元、耐震診断案件が順調に進んでおり今年度中に目処が立てられる予定であることが述べられ、JSCA本部副会長の金田勝徳様からは、今回の適判制度に関する基準法改正の中にJSCAの要望が取り入れられており、社会的に重要な役割を担っているということが述べられました。

ご来賓いただいた方々の名前が呼ばれ紹介が行われた後、千葉県建築士事務所協会会長の鈴木兼次様の乾杯により祝宴が始まりました。

宴も進み和やかになったところで、(株)角藤の平瀬慎一郎様進行役により、賛助会員の方々が順次壇上に立ち、自社のピーアールをされました。

宴もたけなわとなったところで、若手ミュージシャン「peso」によるミニコンサートが開かれ、若々しいはつらつとした音楽によって会場は大いに盛り上がりました。

最後は、市原副代表の三本締めにより締めくくられ終演となりました。お忙しい中ご参加いただいた皆様方に感謝申し上げます。

JSCA・千葉 平成26年 研修旅行

(株)西澤設計事務所 西澤 博文

研修旅行で箱根湯本一泊12月14日に行った。

今回の研修旅行の趣旨として、現地集合・現地解散ではなく、「JSCA法人化25周年記念」と忘年会を兼ねて、皆で懇親を深める研修旅行とした。

JSCA・千葉の役員だけでなく、会員および賛助会員(9名参加)が暮れの忙しい時期なのに、22人もの多数参加があった。

13時40分新宿発小田急ロマンスカー全席指定の箱根29号新車両VSE車(写真左)に乗り、ビール・チューハイ等合計60本を車中で直ぐに飲み干して、赤い顔して箱根湯本駅に着いた。

「ホテルおくゆもと」に到着後、私による研修勉強会「億ション施工ミス・横浜傾斜マンション・見誤りやすい図面」の講義。

その後、賛助会7社のPRがあり、車中で飲み過ぎた者も静かに熱心に聴いてくれた事に感謝!

18時30分より宴会場での記念撮影(写真中)。

今回旅行は格安 3万円パック、(小田急ロマンスカー + 宿泊 + 宴会コンパニオン + 通信カラオケ付飲み放題)、2次会はクラブ「アルカサル」が一杯で入れず、やむなく向後代表の部屋にコンパニオンを引き込み、「王様

ゲーム」を仲間とワイワイと楽しんだ。

(追加コンパニオン代は割り勘)

次の日皆さんの普段の心がけが良かったのか?夜中はドシャブリ雨、朝から青空の良い日。

朝食はお食事処「山里」で和モダンの落ち着いた雰囲気オープンキッチンの食事、個室タイプのイス・テーブル席にてゆっくり窓からの箱根の美しい自然美を堪能して、食事を楽しんだ。

箱根湯本駅より40分登山鉄道に乗り、車窓の紅葉も美しく強羅駅の一つ前で降り、「箱根彫刻の森美術館」に行き、オリジナル足湯100円タオルを買い源泉掛け流し温泉足湯「ほっとふっと」でほっと一息!(写真右)。

現代の新しい彫刻表現として「保井智貴 佇む空気/silence」展、両手の無い少女が、ただ真直ぐに佇む姿から感じる空気は実に神秘的だった。

「幸せを呼ぶシンフォニー彫刻」に皆で昇り、箱根を一望して幸せを感じた。

帰路もアルコールを存分に買い込み、ロマンスカーの旅を満悦して無事新宿にもどった。

幹事補佐の明智さん、絶大成る協力有り難う!



往路 VSE車内にて



ホテル宴会場にて



箱根彫刻の森にて